

科目名 (科目番号)	臨床薬理学	教員名 幸田 幸直	学科等	臨床検査	必修	履修年次	3
	(時間割参照)		曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
			授業形態	講義	オフィスアワー	月2・B206研究室	
授業概要	薬物の作用と動態ならびに薬物治療について基礎的な知識を習得する。①薬物は生体にどのように作用するのか、②投与された医薬品は体内でどのように変化するのか、③種々の病態における薬物療法はどのように行われているのか、④医薬品の取り扱いにはどのような注意が必要かなどについて、医療の現場で使われている医薬品を中心に学ぶ。						
目的・目標	目的:臨床検査技師として医療現場で医師や薬剤師と円滑に協働できるように、薬物および薬物治療について基礎的な知識を習得する。 目標:薬物の生体への作用、投与された医薬品の生体内での変化、病態と薬物療法、医薬品の取り扱い上の注意点などについて、医療現場で使用されている基本的な医薬品を中心に理解する。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	薬理学とは	到達目標:薬理学の役割、医薬品の歴史、薬と法律、処方、医薬品の開発などを理解する。 学習内容:医療における薬物治療の位置づけについて学習する。				
	2	薬理作用と作用機序	到達目標:薬物受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーターなどを理解する。 学習内容:薬物が作用するしくみについて学習する。				
	3	薬の生体内運命と薬効	到達目標:薬物の投与経路、薬物の血中濃度、薬物の吸収・分布・代謝・排泄などを理解する。 学習内容:薬物の体内での動きについて学習する。				
	4	薬物治療に影響する因子(1)	到達目標:相互作用、遺伝的素因、臓器毒性、催奇形性などを理解する。 学習内容:薬効に影響する因子、薬物使用の有益性・危険性について学習する。				
	5	薬物治療に影響する因子(2)	到達目標:病態薬理、発達薬理、妊婦授乳婦、高齢者などを理解する。 学習内容:薬効に影響する因子、薬物使用の有益性・危険性について学習する。				
	6	末梢神経系作用薬	到達目標:交感神経・副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬などを理解する。 学習内容:自律神経系作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬について学習する。				
	7	中枢神経系作用薬	到達目標:全身麻酔薬、睡眠薬、向精神薬、麻薬性鎮痛薬などを理解する。 学習内容:中枢神経系に作用する薬物について学習する。				
	8	心・血管系作用薬	到達目標:心臓作用薬、降圧薬、脂質異常治療薬などを理解する。 学習内容:心・血管系に作用する薬物について学習する。				
	9	血液・腎臓作用薬	到達目標:抗凝固薬、利尿薬などを理解する。 学習内容:血液・腎臓に作用する薬物について学習する。				
	10	抗感染症薬	到達目標:抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬などを理解する。 学習内容:感染症治療と化学療法薬について学習する。				
	11	抗悪性腫瘍薬	到達目標:細胞毒性薬、分子標的薬などを理解する。 学習内容:がん治療薬について学習する。				
	12	抗炎症薬、免疫関連薬	到達目標:抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫抑制薬、抗リウマチ薬などを理解する。 学習内容:炎症と免疫に作用する薬物について学習する。				
	13	内分泌代謝作用薬	到達目標:ホルモン、ホルモン拮抗薬、骨粗鬆症治療薬、痛風治療薬などを理解する。 学習内容:ホルモンおよび代謝性疾患治療薬について学習する。				
	14	呼吸器用薬、消化器用薬	到達目標:気管支喘息用薬、消化性潰瘍用薬、制吐薬、止痢薬などを理解する。 学習内容:呼吸器系や消化器系に作用する薬物について学習する。				
	15	眼科・皮膚科用薬、消毒薬	到達目標:眼科用薬、皮膚科用薬、消毒薬などを理解する。 学習内容:眼疾患治療、皮膚疾患治療、消毒薬などについて学習する。				
成績評価の方法・基準	対面時:期末試験(100%) オンライン時:オンライン期末試験(100%)						
教科書	シンプル薬理学(改訂第6版)		野村隆英、石川直久、梅村和夫 編集		南江堂		
参考図書	臨床薬理学(第4版)		日本臨床薬理学会 編集		医学書院		
教員からのメッセージ	基本的な重要事項は反復して学習し、知識の応用が効くように系統的理解に努めてください。 教科書とプリントを併用しますので、必ず両者を手元において受講してください。 豊富な病院勤務経験をもつ薬剤師が、この授業を担当します。 オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知します。						